

【観梅祈願祭】のご案内

2022年の春、予定の観梅祈願祭は新型コロナウイルス感染予防のため、**霊場会寺社のみの参列で執り行います。**

ところ：結城神社 059-228-4806

とき：令和4年3月2日(水)11時～



令和3年12月2日 開創9周年(円光寺にて)

寺社ちょっといい話

コロナ禍に考える

津観音寺 岩鶴密伝住職

新型コロナウイルスは世界を一変させました。未だ感染の終息が見通せないなか、地域や業種問わずあらゆる人々に深刻な影響が及んでいる事と思います。

それは、私どものような仏教団体にあっても同じで、活動のあり方に大きな変化が求められました。疫病と宗教の関わりには長い歴史があり、東大寺の大仏が作られた理由の一つが疫病への不安とされています。

医療が発達した現代では、新型コロナウイルスの流行から宗教を意識することは少ないですが、先行きが見えない中で多くの人が不安な気持ちを抱え



ている状況は昔も今も変わらないと感じています。

お寺や神社は地域社会の自由区としての役目を古くから果たしてきました。法事やお祓いに訪れるだけではなく、様々な催しに境内や施設が解放され、不特定多数の人が訪れる集いの場、憩いの場であれば良いと思っています。

そこでは神仏との御縁を感じるだけでなく、人と人がつながり、それが地域のコミュニティとなることで、お寺や神社が物理的・心理的なハブ機能(中心的集約機能)を果たすことができるからです。

そのため新型コロナウイルス対策にはとても神経を使いました。境内でのマスク着用を求め、法事中も外しません。受付にアクリル板や消毒液を常備し、授与品の受け渡しなどにも配慮しました。それどころか、手水舎から柄杓をなくし、本堂の鐘の緒を取り除いた時もありました。

催事やイベントともなれば、その対応には多大な負担が強いられ、振り回されたあげくに中止の決断をしたこともありました。

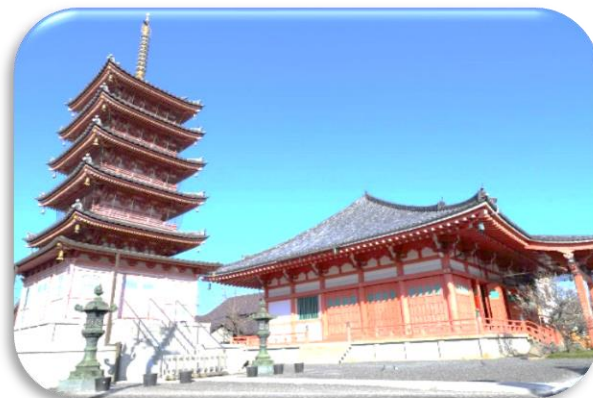
もちろん、悪い事だけではありません。コロナ禍を契機にして、宗教界にもDX(デジタルトランスフォーメーション・進化したデジタル技術を浸透させることでより人々の生活を豊かにしていくこと)の波が押し寄せ、一気に加速した面もあります。

お寺といえば、伝統的な形態や教義を順守し受け継いでいく保守的な側面もありますが、かつては大陸からもたらされた仏教を広めると同時に、世界の先進的な文化や技術の中心地として時代の最先端を行く組織でもあり、まさにビジネスとトレンドの発信地でもありました。

特に近年の若い世代の宗教者には、積極的にSNSやZOOM等のICTを活用し、最新技術を取り入れることで注目を集める寺院も多くあります。寺院が持つ文化や宝物、仏教の魅力等を、距離や言語にしばられず手軽に発信でき、世界中の人が自由アクセスすることができるのは、今までにない大きな利点です。

お寺は誰も拒むことのないよう門戸は常に開か

れていますが、デジタル技術はお寺に直接足を運ぶことが出来ない人にまで門戸を広げてくれたと感じています。コロナ禍で人と人が直接接触する行動が抑制され、コミュニケーションの在り方、人との繋がり方は変わってしまいましたが、寺院がDXの先駆者として、デジタルを使って仏教の魅力を発信し人々がつながれる場所をつくり、心のよりどころとして地域のコミュニティの中心的な役割を再びになっていくことができれば、これほど素晴らしいことはないと思っています。



津観音寺



寄稿

志摩の国七福神巡り 鹿島寿美（八の会）



伊勢の津七福神巡り、友達と御朱印をもらいに何回おまいりしたことでしょう。開創9周年法会は諸事情で欠席でした。

多くの友達とは1回おまいりした所より違う所に行きたいと言うので、去年は志摩の国七福神を巡りました。

10月、波切駅まで電車に乗り、そのあと歩きました。大慈寺（弁財天、布袋尊）と仙遊寺（大黒尊天、毘沙門天）を巡りました。

11月は鵜方駅まで電車、そこから歩きました。本福寺へ（福祿寿、寿老人）色紙を持って歩くのは大変なので、御朱印帳にももらいました。

やっぱり色紙に欲しいと言うので、2022年1月1日に大慈寺に行きました。

そうしたら全部御朱印が押してある色紙があり、それを購入しました。

最後、青峰山正福寺（恵比須天）は車で行きました。

令和4年1月2日、私は初夢を見ました。

四天王寺の東堂さんが白いわけさを着けて、お寺のご門の前にたっておられました。不思議なことがあるものです。



寺社シリーズ

【津観音寺 第一霊場 毘沙門天】



真言宗醍醐派別格本山

本尊は聖観音菩薩で浅草寺・大須 観音と並び日本 三観音と称される。境内の五重の塔は、平成 13 年に世界の平和と繁栄の願いを込めて 500 年余年ぶりに再興されました。お伊勢参りで“津に参らねば片参り”と言われた。

お地蔵様（延命地蔵菩薩） この仏さまは、頭部と胴体で制された場所・年代 が異なります。昭和 20 年 7 月 28 日の大空襲によって観音寺本堂と大宝院など 41 棟を全焼した。同時にお地蔵様は右肩に焼夷弾の直撃を受けましたが奇跡的にも助かり、津市の戦災被害のシンボ ル的なものとなっております。



【見どころ紹介 鬼押さえ節分会】

観音像が網にかかって海上から上がった時に鬼が観音像を奪おうとした故事に由来。観音像を奪いに来る鬼を武士に扮した町役が刀等を持って退治する行事で、あまりの激しさに死傷者が出るほどであり明治 4 年（1871 年）には廃止された。平成 9 年（1997 年）に鬼押さえ行事として復活しました。

【年間行事】

初詣	1月1日～15日
鬼押さえ節分会	2月3日
初午祈祷	3月うまの日
観音会式	4月1日～3日
つ七夕まつり	7月7日
平和と感謝の祈り	7月28日
つ祭り	10月初旬
除夜の鐘	12月31日

伊勢の津七福神 友の会のご案内

伊勢の津七福神が津市に開創して 10 年目を迎えました。

巡拝の方も 6,450 名 (1月末) を越えました。

現在、200 名の友の会会員の皆様のご協力をいただき、この先も歩みを進めていきたいと思っています。

是非ともこの活動に御賛同くださり、巡拝・感謝の心を育て、町おこしの夢を見てください。

会員の方には年 3 回、友の会便りが届きます。特典もございます。

会 費 : 1,000 円/年間 金融機関 : 郵便局

郵便振替口座 : 00820-8-123136 口座名義 : 伊勢の津七福神友の会

《伊勢の津七福神友の会事務局》

〒514-0033 津市丸之内 27-16 高山神社 内

電話:059-225-8558

URL:<http://isenotsu7fukujin>.

■伊勢の津七福神 友の会特典 (会員証をお見せください)

- ・うなぎのつたや 059-228-3005 100 円引き
- ・榊原館 059-252-0206 日帰り入浴 お茶進呈
- ・谷石材 0595-21-2148 花筒 5%引き
- ・はま作 059-228-3088 和菓子サービス
- ・松菱 7階彦兵衛 059-228-6082 ランチ 700 円以上 コーヒー 1 杯サービス
- ・ホテル三徳 059-223-3109 宿泊客にコーヒー一杯サービス
- ・お菓子處とらや本家 059-228-4802 1000 円以上お買い上げでポイント 5 倍押し
- ・マキノ回生堂 059-228-5331 1000 円以上お買い上げの方にティッシュ
- ・長谷川印刷 059-228-4465 名刺 100 枚ご注文の方、一割り引き
- ・飯処しるべ (大門) 059-261-4116 食事の後、ソフトドリンク 1 杯サービス
- ・(株) 日塗建 059-271-6066 塗装料から 10%引き 相談に応じます



編集後記：ご意見、原稿お寄せ下さい。

今年も観梅祈願祭は無参列で開催です。

梅も桜も咲く春は、もうそこに！

池上 kanon@nifty.com

発行：伊勢の津七福神友の会事務局

〒514-0033 津市丸之内 27-16 高山神社内